

モロヘイヤ (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長型であり、窒素をはじめ養分を連続吸収する。収穫期まで養分を供給する必要があり、収穫後の土壌には残存しやすい。そのため、他作目との連作体系による栽培が土壌管理上も有効である。堆肥、緑肥などのすき込みは水分保持効果を示す。過剰な施肥成分は吸収されにくいので、生育を観察して施肥し減肥に心がける。

〔病害虫・雑草防除〕

病害は、黒星病、灰色かび病、うどんこ病などがある。虫害は、コガネムシ、アザミウマ類、ハダニ類がある。いずれも初期防除に心がけ、化学農薬の使用を削減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	<p>土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。</p> <p>肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。</p> <p>緑肥作物を利用する。</p>	<p>堆肥 2～3t/10a</p>
化学肥料 低減技術	<p>基肥は局所施肥(条施肥など)するとともに、窒素、カリについては追肥型の施肥法をとることを基本とする。</p> <p>肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。</p> <p>有機質肥料による施肥を行う。</p>	<p>成分量で慣行施肥量の20%減</p> <p>有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～50%</p>
化学農薬 低減技術	<p>機械により中耕、除草する。</p> <p>微生物農薬を利用する。 (対象：うどんこ病、灰色かび病)</p> <p>光反射マルチを利用する。 (対象：アザミウマ類など)</p> <p>生育初期に防虫ネットによる被覆を行う。 (対象：アブラムシ類など)</p> <p>マルチ栽培を行う。 (対象：雑草など)</p>	<p>慣行使用回数の20%減</p>
その他の 留意事項	<p>高温と水分を好むため、土壌水分が不足すると生育が劣るので注意する。</p> <p>捕殺する。 (対象：コガネムシ類)</p> <p>堆肥中の成分含量を考慮して基肥量を加減する。</p>	